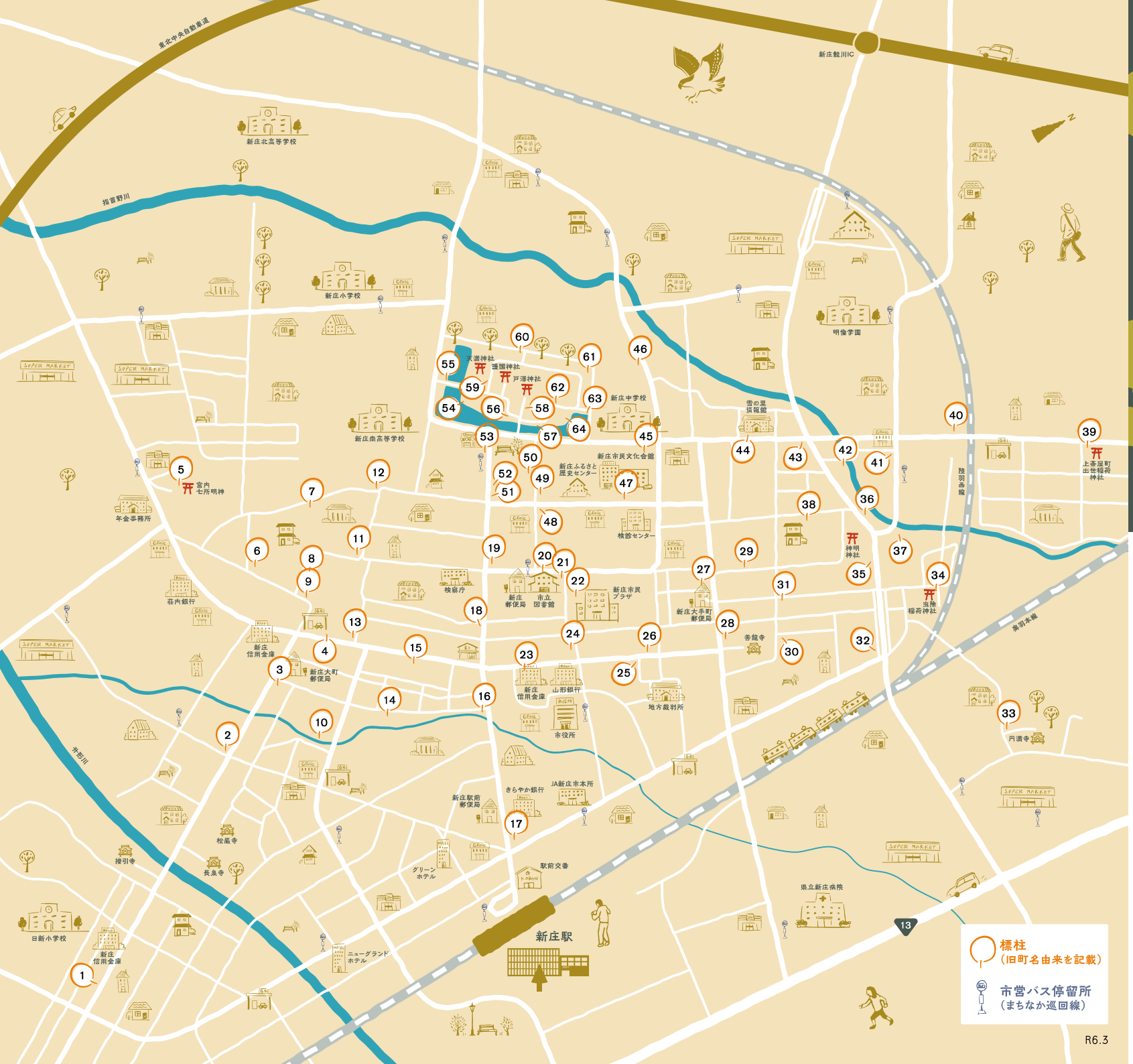

新庄城下まちあるき絵図（マップ）

二の丸跡

新庄市は古い歴史のある城下町です。1624年に戸沢氏が新庄に城を築いて以後、約250年間、戸沢氏による藩政の時代が続きました。新庄藩の城下町として栄えてきましたが、まちの発展とともに住居地の拡大や住居表示の整理統合等により、藩政時代の町名（旧町名）は新しい町名に変更されたものも少なくありません。そこで、城下町新庄の歴史を再認識し、興味を持って理解できるようにと、旧町名や新庄城址の各史跡標柱が設置されています。2025年に開府400年を迎える新庄市。標柱を巡り『城下町新庄』の面影を探してみませんか？

標柱（旧町名由来を記載）

市営バス停留所（まちなか巡回線）

R6.3

受けつぐ想いが、未来をつくる。
新庄開府400年
1625-2025

制作
城下町新庄周遊促進プロジェクト
（新庄市・新庄信用金庫）

城下町新庄　旧町名由来

1 金沢町（現在 下金沢町）

新庄城下町の南入口の町。多くの寺や神社がおかれ、裏町には足軽組が設置されていた。
本通りには酒屋・茶屋が並んでいた。

2 鉄砲町（現在 鉄砲町）

敵の侵入を防ぐために鉄砲組をおいたところ。
昔は持筒（鉄砲のこと）町とも呼んだ。

3 落合町（現在 大町）

中の川と清水川の合流地点であったので落合町という。
酒屋・漆屋が多かった。東端れ、中の川橋のたもとに大門があった。

4 清水川町（現在 大町）

町名は、昔このまちの東に流れていた清水川に由来する。清水川町には、雁・鴨・小鳥や鯛・鯉・鰹などの魚を扱う店が並んでいた。

5 神宮寺跡

七所明神の別当神宮寺のあったところ。
神宮寺は常楽坊以下六坊をそなえていた。（未設置）

6 片原町（現在 宮内町）

山口丁から南に伸びた通り。この町は通りの片側にだけ家が並び、他方は空地であったので、片原町と呼ばれた。

7 宮内丁（現在 宮内町）

七所明神が祀られているので宮内丁という。
昔、海藤帯刀という侍が、明神を二枚橋から移してここに祀った。頭を守る神として信仰が厚い。

8 筋違い橋（現在 宮内町）

ここの橋板が筋違いに並べられていた。
橋の下に「ざぐ」という狐がいて、ここを通る人を化かしたものだという。

9 山口丁（現在 宮内町）

清水川町南端から西に入り、南に伸びる通り。
通りの西側に大場・森・平賀・岡野氏などの侍が屋敷を構えていた。

10 御長柄町（現在 宮内町）

長柄の衆が屋敷を構えていた町。
御長柄町は古くは現在の清水川町にあったが、享保3年（1718）、ここに移された。

11 南岡崎丁（現在 宮内町）

南御門から御馬出口に至る通り。黒川・津田・駒杵・常井氏などの中級家臣の屋敷があった。

12 南御門跡（現在 城南町）

外曲輪東南隅にあった門の跡。南御門は高い石垣を土台とした櫓門であった。

13 御馬出口（現在 大町）

藩主が馬に乗って御城から馬喰町（羽州街道）に出たところ。

14 名古屋敷（現在 大町）

在方から出て来て、侍屋敷に奉公する人々を名子と呼んだ。これらの人々の屋敷があったところ。

15 馬喰町（現在 大町）

諸国の馬喰が集まって馬の売買を行った。
領内の小国駒をはじめ、秋田・南部・津軽・本荘などの馬が取引きされた。

16 紙漉町（現在 沖の町）

新庄藩お抱えの紙漉き職人が、清水川の清流を利用して紙を漉いた町と伝えられる。
藩政時代後半には、侍と町人が入り交じって住む町となった。

17 沖の町（現在 沖の町）

昔、この辺は金沢沖と呼ばれ、一面の田んぼであった。
明治36年、新庄駅が設けられると、駅と南本町を結ぶ道路が開かれ、市内随一の商店街になった。町の名は昔の地名金沢沖に由来する。

18 三の堀跡（現在 小田島町）

三の堀は吉川町から北本町・南本町裏を経て宮内丁に流れ、侍町と町人町を境していた。

19 大正町（現在 小田島町）

明治44年の大火を機に、沖の町の過りを西にのばして、御城までの道路が開かれた。
大正時代にできた町というので大正町という。

20 仲丁（現在 小田島町）

侍町と町人町の間にある町なので仲丁と呼んだ。上・中・下の三丁に分かれる。
古くは山崎丁・村山丁と呼ばれた。

21 藩校明倫堂跡（現在 小田島町）

新庄藩校明倫堂は明和年間に創設され、幾多の俊秀を育てた。
安政5年（1858）、この地に移され、明治4年まで続いた。

22 町奉行所跡（現在 大手町）

新庄城下町の市政や治安をつかさどる役所のあったところ。
現在の市役所と警察を合わせたような役所。

23 南本町（現在 本町）

南本町はもと五日町といい、羽州街道に沿ってつくられた町人町で、城下で最も賑やかな町であった。
ここには参勤交代で江戸に登る大名が泊まる本陣、反物・仏像・筆・墨などを商う豪商が軒を連ねていた。

24 大手口（現在 本町）

町人町、北本町・南本町から新庄城に入る入口。
この口に番所が設けられ、北側に町奉行所がおかれた。
大手広丁を通り、二の丸の大手門を経て、本丸に入った。

25 北本町（現在 本町）

北本町はもと十日町といい、南本町とともに羽州街道沿いにつくられた町人町で、城下で最も賑やかな町であった。ここには参勤交代の大名が泊まる旅篭屋、反物・薬種などを扱う豪商が軒を連ねていた。

26 鼠穴口（現在 本町）

町人町の北本町から侍町仲丁（山崎丁）に入る入口。
この口だけは、夜間でも密かに通ることが許されていた。人々は鼠のようにこそこそと通ったという。

27 南学院口（現在 大手町）

横町から仲丁に入る入口。ここに南学院という修験の屋敷があったので、この名がついた。

28 横町（現在 万場町）

横町は櫛・かんざし・紅・白粉などの化粧品を商う町として知られていた。
新庄城下の道は南北方向が基本であるが、この町は東西方向であるので横町という。

29 桜馬場（現在 沼田町）

二代藩主正誠のとき、ここに馬場をつくり、その周りの土手に桜を植えた。
これが大きくなって、桜の名所になった。

30 常盤丁（現在 常葉町）

常盤丁は藩主戸沢氏の別邸がおかれた町で、これを守る多くの侍が住んでいた。
この別邸は歴代藩主の隠居所として用いられた。

31 万場町（現在 万場町）

穀物・野菜・果物を商う店が並び、酢・酒・醤油を扱う店も多かった。
万の店があるので万場町と呼んだ。古くは長町という。

32 常盤丁別邸跡（現在 常葉町）

二代藩主正誠がここに別荘を営んだ。その後歴代藩主の隠居所となった。

33 円満寺（現在 五日町）

江戸時代初め、戸沢氏が新庄に入部した折、郊外に円満寺を建てて、藩主の祈願所とした。

34 中山町（現在 万場町）

城下から中山に向かう町だから中山町という。
この町の虫除稲荷は、稲や畑の作物を害する虫を退治してくれる稲荷様として有名。

35 吉川町（現在 万場町）

吉川町は合羽・傘・蓑・笠などの雨具を売る店が並んでいた。
西端れの橋のところに大門があり。夜間の通行人を改めた。

36 鉄砲屋口（現在 万場町）

吉川町から神明丁に入る入口。ここに今井という鉄砲鍛冶がいたので、鉄砲屋口と呼んだ。

37 吉川町天満宮跡（現在 万場町）

吉川町天満宮は、町人の参拝する天満宮として、城内天満宮を分祀したものである。
この天満宮は、また、城下町の北の守りの拠点でもあった。

38 神明丁（現在 沼田町）

神明宮が祀られている町というので、神明丁と呼ぶ。
神明宮は、二代藩主正誠が城下の鎮守として金山から移した宮である。その前は松本丁と呼ばれた。

39 一里塚跡（現在 中道町）

江戸時代は全国の主な街道に、一里（四キロメートル）ごとに塚を築き、松や榎などを植えて、旅人の便をはかった。
ここは太田街道の一里塚である。

40 茶屋町（現在 北町）

新庄城下町の北の入り口にあたる町で、たくさんの茶屋があり、旅人を相手に餅やそば・酒・菓子などを商っていた。

41 鍛冶町（現在 北町）

たくさんの鍛冶屋がいて、侍が使う刀や槍、農民が使う鍬・鎌・山刀などを打っていた。
刀鍛冶としては高橋市郎兵衛が有名である。

42 三本橋（現在 沼田町）

藩主が鷹狩りに通うために、ここに三本の丸太を渡して仮の橋としていた。
当時は太田・荒小屋あたりが格好の鷹場であった。

43 水上丁（現在 石川町）

御城からみて水上の方角にある町だから水上丁と呼ぶ。
この町には水原氏・星野氏・太田原氏などの中級の侍が住んでいた。

44 石川丁（現在 石川町）

新庄城北御門から三本橋に至る通り。新庄城三の丸にあたる。
瀬川氏・田口氏・折下氏などの上級・中級家臣の屋敷があった。

45 北御門跡（現在 堀端町）

外曲輪の北側にあった門の跡。北御門は高い石垣を土台とした櫓門であった。

46 川原町（現在 堀端町）

新庄城外曲輪北御門前から堀沿いに西に伸びた通り。
通りの北側に十時氏の屋敷や板前長屋があった。

47 堀端丁（現在 堀端町）

外曲輪東側の堀に沿う通り。大手門より北を上堀端丁、南を下堀端丁と呼んだ。古くは清水丁と岡崎丁と呼んだ。

48 大手広丁（現在 大手町）

大手御門から南本町（羽州街道）に出る大通り。
天野八右衛門・長野藤兵衛などの上級家臣の屋敷があった。

49 大手御門跡（現在 堀端町）

外曲輪の正門があったところ。大手御門は高い石垣を土台として築かれた櫓門であった。

50 御役所跡（現在 堀端町）

ここに藩内の田畑や年貢・産物・財政などを扱う役所があった。

51 二の堀跡（現在 堀端町）

二の堀は外曲輪のまわりにめぐらされていた堀。
この外側は三の曲輪の侍町であった。

52 時鐘堂跡（現在 堀端町）

ここに時間を知らせる鐘撞き堂があった。鐘は高い櫓の上に吊るされていた。

53 御鷹部屋（現在 堀端町）

新庄藩が幕府に献上する鷹を飼っておく建物があった。

54 武器櫓跡（新庄城址内）

この一角に二層の隅櫓がそびえていた。中に槍・鉄砲などの武器を入れていた。

55 二の丸跡（新庄城址内）

本丸の南に設けられた廓。廓内に二の丸長屋があった。

56 表御門跡（新庄城址内）

本丸正門のあったところ。表御門はこの石垣を土台とした櫓門であった。

57 御物見跡（新庄城址内）

ここに城外の様子をうかがう建物があった。この土塁の上に土塀がめぐらされていた。

58 御玄関跡（新庄城址内）

新庄藩政庁の正面玄関。この奥に廊下をへだてて、40畳敷の大書院、32畳敷の御広間などがあった。

59 新庄城天守台跡（新庄城址内）

ここに三層の天守閣がそびえていたが、寛永13年（1636）の火事で焼失した。

60 西丁（新庄城址内）

新庄城本丸の西にある町。御厩・作事所などの役所や檜岡平布衛門・細田小十郎・武石藤太夫などの名門家臣の屋敷があった。

61 大納戸櫓跡（新庄城址内）

本丸の西北隅に築かれた隅櫓。瓦葺き、二層の櫓であった。

62 裏御門跡（新庄城址内）

本丸北側にあった城門の跡。裏御門は高い石垣の上に築かれた櫓門であった。

63 御用水（新庄城址内）

指首野川から分水して城内にひき入れ、用水としていた。この堰では決して穢いものは洗ってならないとされていた。

64 小納戸櫓跡（新庄城址内）

本丸の東北隅に築かれた隅櫓。瓦葺き、二層の櫓であった。

新庄信用金庫
新庄市本町2番9号　TEL.(0233)22-4222